

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

チャレンジ性と品質を両立させる 遠藤 功 (早稲田大学ビジネススクール教授)

1. 新しいものにチャレンジしているから品質問題が起きている。過去と同じものを作っている中で、後ろ向きにしがみついて品質に問題を起こしているのではない。新しい価値に挑戦しているから起きている。新しいものにチャレンジすれば、品質が一時的に劣化するリスクを伴う。さらにもっと新しいものにチャレンジし続け、その中で品質問題を起こさない努力を続けることが大切だ。このチャレンジ性と品質とを、どう両立させていくか。これが今の日本企業にあらためて突き付けられている課題だ。
2. 品質問題は起こさないという理想の追求の一方で、現実への対応準備が必要とされる。現場に対してはつねに理想を追求させる。瑕疵はゼロにせよと。一方で、経営者としては問題が起こりうると想定して対応の準備をしておく。この二つをつねに裏表の関係で考えていく。
3. ブランドは何か眼に見えない情緒的なつながりを感じさせる。それが品質を構成する重要な部分であり、その「情緒的品質」を強めることが大事だ。今までの一つの軸、機能的品質だけに頼ってはいは急速にキャッチアップされる。日本には品質しかない。天然資源があるわけではなく、人で勝負するしかない。

(参考:「週刊東洋経済」2010年11月6日号)

ワンポイント経営アドバイス

経営者の宿命と責任

1. 経営の世界では、トップが限界に挑むことは、必ずしも称賛に値する行為とは言えない。経営者の「自分との戦い」は、万一負ければ、社員やその家族、関係者を路頭に迷わせかねないからだ。大多数の経営者は、残した功績がどんなに大きなものがあったとしても、高齢になればなるほど経営能力は少しずつ低下していくものだ。
2. それでも無理を押し、経営の第一線に出ようとすれば、それだけ会社を危険にさらしかねない。時流に合わない経営が続く、ステークホルダー(利害関係者)に不安を与える上、後継者は経営者として独り立ちできない事態に陥る。しかるべき時期が来れば、会社離れし、本来、取り組むべき事業承継のための準備を進める。それが、経営者の宿命であり責任と言える。

(参考:「日経トップリーダー」:2010年12月号)

新規成長分野

「新たな海洋開発」に注目

1. 日本は地理的に海に囲まれており、世界6位の排他的経済水域(EEZ)を有している。この日本の地理的な優位性を活用した「新たな海洋開発」が注目を集めている。従来の海洋開発は、海岸防護施設、港湾施設、埋め立て・人工島などが主体だった。しかし、最近は①新たなエネルギー、②鉱物資源、③再生可能エネルギー、④バイオマス燃料、の宝庫として海洋が見直されている。
2. 新たなエネルギーとしては、メタンハイドレートが注目されている。鉱物資源としては、海底熱水鉱床に期待が集まっている。再生可能なエネルギーとしては、洋上での風力発電、波力発電や潮力発電、海洋温度差発電が挙げられる。バイオ燃料に関しても、海洋を活用する技術が開発されている。

(参考:「野村週報」2010年11月15日号)

古典に学ぶ

人の道を踏みはずすな

「事の是非如何を顧みるのみ。成敗に至りては天なり。あに予めその成らざるを憂えて、遂にやめて為さざるべけんや」

(訳) これはリーダーの決断に関連した言葉です。「仕事に際しては、正しいか正しくないか、それだけを考え、結果は天に任せるのである。初めから失敗を恐れて、実行するのをためらってもよいものか」というのです。

(参考:守屋 洋「リーダーのための中国古典」:日経ビジネス人文庫)